

●天城山を中心とした

伊豆市の ハイキングコース

24選

伊豆市

Contents

〈表紙〉 八丁池

- 伊豆市の全体図……………表 2
- 伊豆市の自然……………1
- 楽しいハイキングのために……………1
- 1 修善寺温泉史跡・文学散歩……………2
- 2 いろは道～奥の院・桂大師……………4
- 3 桂谷 88ヶ所めぐり……………6
- 4 修善寺歩道……………8
- 5 金冠山・きよせの森……………10
- 6 達磨山……………12
- 7 コビサワラ原生林……………14
- 8 天城シャクナゲコース……………16
- 9 天城縦走……………18
- 10 皮子平……………20
- 11 湯道・熊野山33観音めぐり……………22
- 12 天城遊歩道……………24
- 13 吉奈～船原遊歩道……………26
- 14 狩野城跡……………28
- 15 太郎杉歩道……………30
- 16 踊子歩道……………32
- 17 八丁池……………34
- 18 野鳥の森・八丁池……………36
- 19 三筋山遊歩道……………38
- 20 伊豆山稜線歩道(1)……………40
- 21 伊豆山稜線歩道(2)……………42
- 22 西伊豆歩道・通り崎コース……………44
- 23 西伊豆歩道・丸山コース……………46
- 24 西伊豆歩道・廻り崎コース……………48
- ハイキング帰りの入れる日帰り温泉・花ごよみ……………表 4

● 本書の使い方 ●

地図は北が上というのが基本であるが、コースによっては歩き始める起点が北以外にした方がわかりやすいこともあるので、逆にしたコースもあります。方位にとらわれることなく、楽しく歩いてください。

散歩程度の短いコースから本格的な健脚向まであるので、自分の体力・経験によって選んで歩いてください。所要時間は個人差がありますし、休憩時間は含まれていませんので十分余裕をもって計画を立ててください。



- | | | |
|----|----------|------|
| 凡例 | バス路線 | トイレ |
| | ハイキングコース | 石碑・墓 |
| | 川(滝・ダム) | 石仏 |

伊豆市の自然

■ 気 象

伊豆半島のほぼ真ん中に位置する伊豆市は海拔0メートルから、1,406メートルの最高峰・万三郎岳まで標高差のある自然に溢れた町である。冬でも暖かくほとんど雪や霜が降りることはなく温暖な気候に包まれているが、天城山などの山間部では雪の降ることがある。海岸部では晴れていても天城山では雨ということもあり、天城山の年間雨量は3,000ミリを越すこともしばしばある。

■ 動 物

温暖な気候と亜熱帯の海岸から変化に富んだ山野を持つ伊豆市には数多くの動物が生息している。特に天城山にはイノシシやシカ、タヌキ、ウサギなどが見られ、八丁池や猫越岳山頂の池では天然記念物のモリアオガエルがいる。また、オオルリ、コルリ、ミソサザイ、コマドリ、ホトトギス、ウグイス、コガラなどの野鳥も多い。亜熱帯植物の多い海岸林には昆虫類も多く見られる。

■ 植 物

天城九木に代表される森にはブナをはじめヒメシャラ、カエデ類、アセビなどのほか、天城固有種のアマギシャクナゲ、アマギツツジなどが混生している。また、桜の種類も豊富でソメイヨシノはもちろん、オオシマザクラ、修善寺桜、修善寺寒桜、土肥桜、最福寺枝下桜、メマザクラ、江戸彼岸桜、枝下桜ほか桜の宝庫となっている。

楽しいハイキングのために

寝不足・飲酒・体調不良の時は、出掛けるのはやめましょう。無理な行程を組まないで、余裕をもった計画を立てましょう。また、思わぬ事故や天候の急変、積雪、危険な動植物に遭遇した場合に対処できるようにしっかりした装備をして安全登山を心掛けましょう。出掛ける時は家族に知らせていきましょう。

ハイキングのマナー

- | | |
|------------------|----------------|
| ■ ゴミは必ず持ち帰ろう | ■ 畑の野菜・果物を採らない |
| ■ 動植物は採らない | ■ コースを外れない |
| ■ 歩行中は禁煙 | ■ 大声や大きな音をたてない |
| ■ たき火・タバコの投げ捨て厳禁 | ■ 挨拶を交わそう |
| ■ 他人の土地・建物に入らない | |

装備

必要
これだけは

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン | <input type="checkbox"/> 着替え |
| <input type="checkbox"/> つばの広い帽子 | <input type="checkbox"/> ヤッケなどの防寒具 |
| <input type="checkbox"/> くるぶしまで隠れる登山靴 | <input type="checkbox"/> 救急医療品 |
| <input type="checkbox"/> デイバッグ | <input type="checkbox"/> 手袋 |
| <input type="checkbox"/> いたみにくい弁当 | <input type="checkbox"/> 非常食・行動食 |
| <input type="checkbox"/> 水筒 | <input type="checkbox"/> 時計 |
| <input type="checkbox"/> 雨具 | <input type="checkbox"/> 携帯電話 |
| (折り畳み傘・カッパ) | <input type="checkbox"/> 地図・コンパス |
| | <input type="checkbox"/> タオル |

便利なもの

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> カメラ | <input type="checkbox"/> ライター |
| <input type="checkbox"/> 双眼鏡 | <input type="checkbox"/> ナイフ |
| <input type="checkbox"/> 図鑑 | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 虫よけスプレー |
| <input type="checkbox"/> ラジオ | <input type="checkbox"/> 呼笛 |



伊豆市

1～24はハイキングコース
イ～タは日帰り温泉施設(裏表紙参照)

- ☎ 0558-72-2501 伊豆市観光協会修善寺支部
- ☎ 0558-83-2636 伊豆市観光協会中伊豆支部
- ☎ 0558-85-1056 伊豆市観光協会天城支部
- ☎ 0558-98-1212 伊豆市観光協会土肥支部

お問い合わせ先

1 修善寺温泉史跡・文学散歩

修善寺温泉は弘法大師が発見したと伝わる伊豆最古の温泉。歴史と自然に囲まれた温泉地は、源氏三代の悲劇の舞台となった所。桂川をはさんで温泉情緒たっぷり風の風情が残る、古くから多くの文人墨客が訪れ、沢山の名作を残している。岡本綺堂の「修善寺物語」もその一つである。修善寺駅から修善寺温泉駅行き、若しくは戸田行きのバスで7分、修善寺温泉駅で下車。みやげ物店が並び温泉街を行くと日枝神社がある。境内には大きな夫婦杉や天然記念物のイチイガシ、源範頼が住んでいたという信功院跡がある。



▲独鈷の湯

が、手に持っていた仏具の独鈷杵で川の岩を砕き、温泉を湧出させて温泉療法を教えたと伝わる伊豆最古の温泉である。毎年4月21日には大師の霊前に献湯する湯汲み式が行われている。福地山修善寺は平安初期、弘法大師の開基と伝わる名刹。宝物館「瑞宝蔵」には岡本綺堂の名作「修善寺物語」のヒントになった頼家の面や政子署名の放光般若波羅密多經、頼家の陣旗、範頼の馬具などが展示されているほか天井には川端龍子の「玉取籠」が描かれている。鐘樓脇の竹林から寺の裏手に回り、静かな住宅街を範頼の墓へと向かう。源範頼は、兄頼朝の誤解を受けて修善寺に幽閉され、後に梶原景時に攻められ、信功院で自害している。



▲範頼の墓

墓は立派な五輪の塔で温泉場外れの高台にひっそりと佇んでいる。畑の中を下って広い舗装道を横断し、「風の径」を行くと赤蛙公園。島木健作の短編「赤蛙」の取材地で梅や杉の木立に囲まれた池には蛙の像がある。川沿いに竹垣のある小道を行くと「ギャラリーしゅぜんじ回廊」がある。回廊式展示場で修善寺の歳時記や花、山野草、日本画などを写真を使って展示している。特に春の桜名所、秋の紅葉名所の写真展は好評だ。赤い桂橋を渡ると竹林の小径に入る。真ん中に直径4分の竹製の円形ベンチがあり、ここに寝そべって空を見上げるとリフレッシュできる。歩道の境界には桂垣や光悦寺垣、建仁寺垣などが使われている。指月殿は一切経堂とも呼ばれ政子が、わが子・頼家の冥福を祈って「宋版大蔵經」と共に修善寺に寄進したもので、禅宗式の珍しい形の丈六釈迦如来座像が祀られている。



▲竹林の小径

すぐ脇に源頼家の墓。頼家は鎌倉二代將軍となったが、北条氏の策略により修善寺に幽閉され、虎溪橋近くの菅湯で入浴中に暗殺された。辺りは広い源氏公園となっていて、その一角に頼家の死を追い自刃した「十三士の墓」がある。頼家の墓から鹿山を散策するコースを登る。桂谷八十八ヶ所巡拝コースの44番から37番までの8ヶ所を巡るミニコースである。おしゃぶり婆さんの石仏や源義経の像、吉田絃二郎・明枝夫妻の墓、明枝の句碑などがある。下ってみゆき橋を渡って左に行けば起点の修善寺温泉駅だ。また、温泉場から修善寺梅林までの山道は花と文学の散歩道となっているので併せて歩いてみるのもいい。梅園まではちょっときつい上りなので、もみじ林までバスで行き、梅園を抜けて温泉場に向かう方が楽である。

修善寺梅林は2月に紅白3000本の梅が咲く花の名所。遊歩道沿いには修善寺ゆかりの中村吉右衛門、高浜虚子、尾崎紅葉、市川左団次らの句碑と「修善寺物語碑」がある。散歩道を温泉場を下り源範頼の墓へと結んで歩いてみる。



源氏三代の悲劇の舞台となった伊豆の名門・古湯に文人の足跡を訪ねる

2 いろは道 奥の院・桂大師

いろは石を辿って弘法大師ゆかりの奥の院・そして桂大師へ

「色は匂へど散りぬるを、我が世誰ぞ常ならむ、有為の奥山今日越えて、浅き夢見し酔ひもせず」言わずと知れた手習歌の一つ「いろは歌」である。作者には諸説あるが、平仮名47文字を重複しないように、弘法大師が作ったと伝わる歌である。

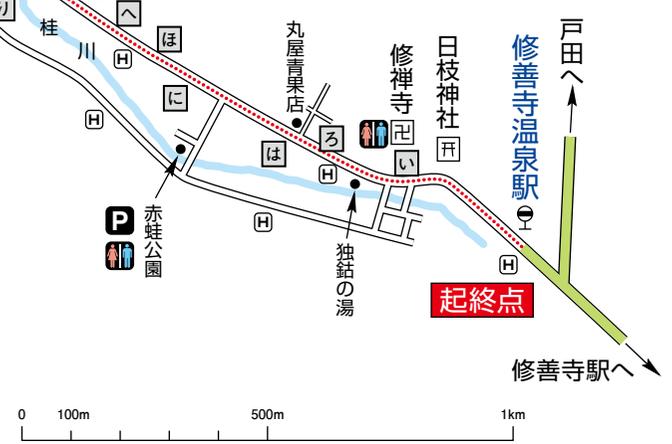
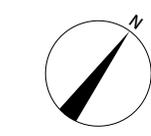
このいろは文字に「ん」を加えた48文字を刻んだ石碑が、修禪寺の山門から湯舟の奥の院までの54段の間に建てられている。この石碑は明治39年（1906）、弘法大師の熱烈な信者であった東京の日高屋商店・高橋為三郎さんによって寄進されたものである。建てられた当初は僧侶や信者たちの道しるべとして大変喜ばれたという。

建てられて100年以上も経っているのに、その後の道路整備や宅地化によって欠けたり失われたものがあったため、平成3年（1991）4月に全面的に補修が行われた。補修により新旧取り混ぜて48基。修禪寺の「い」から奥の院の「ん」まで順に辿って訪ねてみよう。道順に従って分かりやすく設置されているので、探しながら歩くのも面白い。また、いろは道は桂谷八十八ヶ所巡拝コースの一部にもなっているのので、併せて訪ねてみよう。

いろは石と桂谷八十八ヶ所の二種類の石碑のほかに信仰の道らしく各所に石仏や石碑などがあるのので、野仏などの見方の参考書を持っていくとより楽しくなる。

修善寺駅から修善寺温泉行きバスで7分、終点で下車。狭い温泉街を抜けると日枝神社の隣に修禪寺がある。

修禪寺山門下に「弘法大師」と刻



▲いろは石と88ヶ所碑



▲下湯舟公会堂の石造物



▲「い」の字の石塔（修禪寺）

またれた石塔があり、側面に大きく「い」の文字が彫られている。これが「いろは歌」の最初の「い」の字でいろは道の最初の道標である。いろは石を順にみつめて奥の院まで行こう。

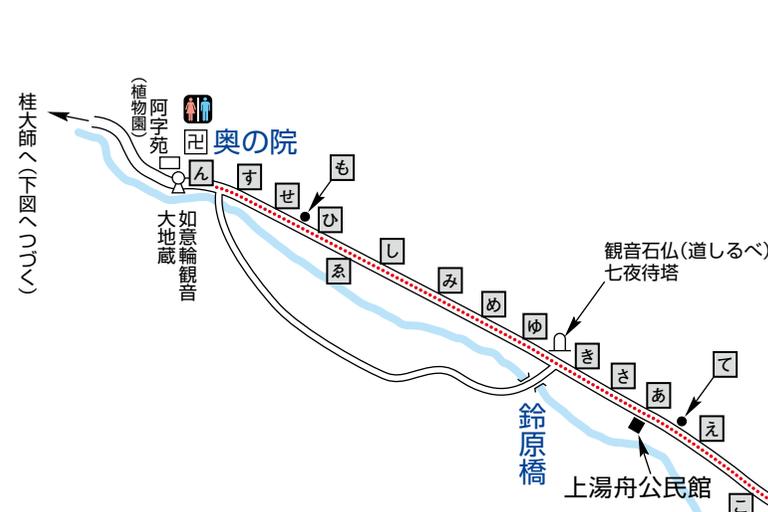
奥の院は弘法大師が18才の時、修行した所で、駆籠の窟という岩洞がありその岸壁には阿吽の滝がある。滝の前には弘法大師降魔殿という修行石がある。

桂大師は弘法大師が朱塗沢に修行に入った時、四国から持ってきたカツラの杖を地面に挿し忘れてしまい、それが成長したと伝わる大木である。現在の木は三代目で樹の高さ30m、幹回り周囲が7.2m、樹齢は1000年と言われ、県の天然記念物に指定されている。根元の祠には大師の石仏が祀られている。

桂大師へは奥の院から湯舟川沿いの林道を1.5km行った広場から川を渡りスギ林の道を登った所にある。

毎年、春の静寂・秋の静寂と題した修禪寺から奥の院までのウォーキングが催されている。特製弁当付きで参加料は1000円。

お問い合わせは
伊豆市観光協会修善寺支部
05558・72・2501



コースタイム(参考)

桂大師	60分	奥の院	20分	鈴原橋	25分	水池橋	20分	下湯舟公会堂	25分	輪田橋	15分	修禪寺	5分	修善寺温泉駅	7分
桂大師	50分	奥の院	15分	鈴原橋	20分	水池橋	15分	下湯舟公会堂	20分	輪田橋	15分	修禪寺	5分	修善寺温泉駅	7分

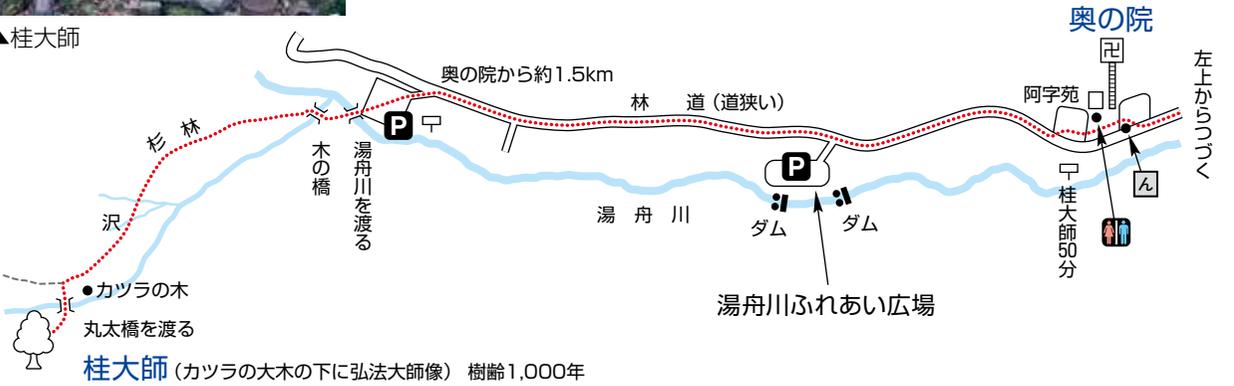
●所要時間：約2時間50分(往路)／約2時間20分(復路)



▲桂大師



▲奥の院



桂大師 (カツラの木の下に弘法大師像) 樹齢1,000年

3 桂谷八十八ヶ所めぐり

修善寺温泉を取り囲む自然の中に
四国霊場巡拝にひとしいご利益を求めて



▲ 88ヶ所石碑

1200年の歴史と自然に満ちた修善寺温泉は、弘法大師が発見したという湯処・伊豆の名門。この温泉場を囲む自然の中に四国八十八ヶ所を横した桂谷八十八ヶ所がある。

昭和5年(1930)、当時の修善寺38世丘球学老師が四国の各霊場の土を持ち帰り、弘法大師ゆかりの修善寺に移し桂谷八十八ヶ所として創ったものである。仙台石に丘球学老師の筆による弘法大師像と四国

洞、半経寺と下る。折り返して越路橋から桂川を渡り嵐山、鹿山へ上り、温泉場南麓を経て奥の院に至り、折り返して中島橋、日影橋より北又、紙谷、中里、そして温泉場北麓を経て、再び修善寺の裏山に戻る6里31町(およそ25km)に番外1基と再建1基を加えた90基の大師像が建てられている。

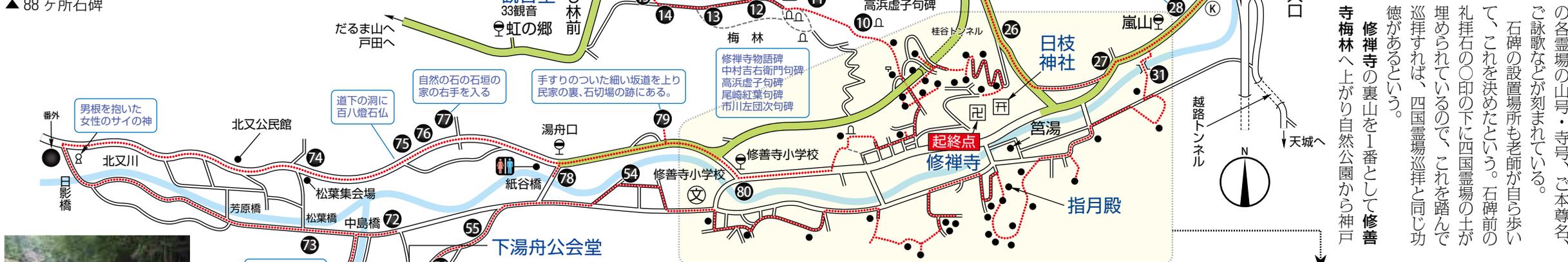
八十八ヶ所を詳しく案内することは誌面の都合でできないので、毎年11月7日〜9日まで、2泊3日をかけて家内安全・無病息災・大願成就を祈念しながら巡拝する桂谷八十八ヶ所めぐりが行われるので、これに参加するのがおすすめ。修善寺の僧侶たちの先導で初日が修

の各霊場の山号・寺号、ご本尊名ご詠歌などが刻まれている。石碑の設置場所も老師が自ら歩いて、これを決めたという。石碑前の札拜石の〇印の下に四国霊場の土が埋められているので、これを踏んで巡拝すれば、四国霊場巡拝と同じ功德があるという。

修善寺の裏山を一番として修善寺梅林へ上がり自然公園から神戸

1200年の歴史と自然に満ちた修善寺温泉は、弘法大師が発見したという湯処・伊豆の名門。この温泉場を囲む自然の中に四国八十八ヶ所を横した桂谷八十八ヶ所がある。

昭和5年(1930)、当時の修善寺38世丘球学老師が四国の各霊場の土を持ち帰り、弘法大師ゆかりの修善寺に移し桂谷八十八ヶ所として創ったものである。仙台石に丘球学老師の筆による弘法大師像と四国



男根を抱いた女性のサイの神

自然の石の石垣の家の右手に入る

手すりのついた細い坂道を上り民家の裏、石切場の跡がある。

修善寺物語碑
中村吉右衛門句碑
高浜虚子句碑
尾崎紅葉句碑
市川左團次句碑

民家の左隣の小道を4~5m入った左側



▲ 巡拝風景

下湯舟公会堂

両岸に車道あり72番への近道

回転六角六地藏 湯舟川

水坂橋 いほ石

72・0063

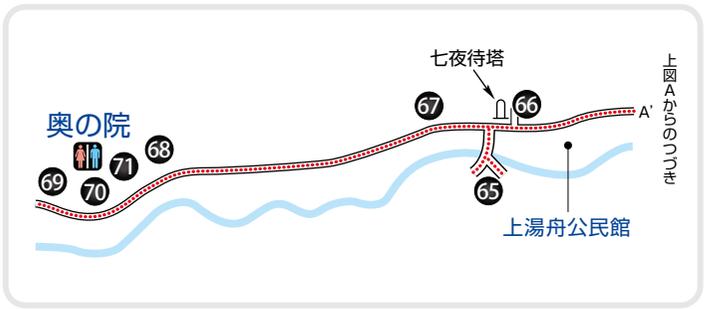
は修善寺0558

0558・72・2501

禅寺を出発し一番から35番まで、2日目(午前中)が72番から88番まで。参加希望者は初日の朝8時までに修善寺境内に集合すればよい。白装束やご詠歌集、杖、手拭い、昼食などの手配、及び宿泊(通常より低料金)の案内も伊豆市観光協会修善寺支部0558・72・2501でやってみよう。

なお修善寺では多くの人に座禅に親しんでもらおうと「火曜座禅会」が催されている。毎週火曜日の9時30分から(所要時間1〜2時間)で定員は30名。参加無料。お問い合わせは修善寺0558

※修善寺から奥の院までは「いろは道」と呼ばれている。いろは48文字の石碑がたてられています。(詳細は4・5頁参照)



▲ 修善寺

4 修善寺歩道

伊豆山稜線歩道は天城峠から仁科峠、船原峠、戸田峠、だるま山高原レストハウス、修善寺自然公園までの全長42kmのコースを言う。

その内、**修善寺歩道**と呼ばれる所は戸田峠から富士見コースを経由してだるま山高原レストハウス、更に虹の郷までのコースである。富士見コースは金冠山の頂で紹介してあるので、ここではだるま山高原レストハウスからのコースを紹介する。

修善寺駅から戸田行きのバスで27分、**だるま山高原レストハウス**で下車。伊豆三絶の一つに数えられている所なのでレストハウスから駿河湾越しの富士山を眺めてほしい。(11頁参照)

この地はキャンプ場となっていて、キャンピングが数棟あり、夏にはキャンパーで大変賑わう。

駐車場の左手にある達磨像の手前から樹林帯に入る。一旦樹林帯を抜け出ると県道に出て横断し、道沿いに下る。すぐにキャンプ場の入口で広い駐車場となっている。管理棟の前を横切りテントサイトのあるキャンプ場へと下って行く。展望の良い所で、富士山は勿論、駿河湾、天城連山、達磨山が望める。

キャンプ場を抜けると下りが少しくつくなり灌木の中の防火帯の広い尾根道を下る。春先にはワラビが沢山生える所で、わらび狩りを楽しむ家族連れが目立つ。

長い防火帯の尾根道を下り切ると県道の三差路に出る。そのまま横断して斜面を登る。急な道を上がり切ると**三等三角点**がある。ここをぐっと右に曲がり、樹林帯の中を下る。県道に一旦近づいて雑木林に入ると、抜けると、また県道の三差路に出る。右に下る道は北又から修善寺へ行く道だ。ここでは真っすぐ県道を歩くことになる。県道に歩道がないので**伊豆国際カントリークラブ**の先までのおよそ2kmは車道を歩かねばならない。車には十分気をつけて歩いてほしい。

カントリークラブから旧の県道を左に見て下ると、左に歩道の入口がある。だるま山高原レストハウスから5km、もみじ林まで2.4km、虹の郷まで2.9kmの地点である。灌木の中の広い道を緩やかに下ると旧の県道に合わる。しばし、こ

から虹の郷は県道を右に5分ほど歩いた所にある。また、近くの県道沿いに**県きのこ総合センター**(入館無料)があり、きのこのあれこれが展示されているので興味ある人は寄ってほしい。山で見つけた解らないきのこの鑑定もしてあげる。

大きな**忠魂碑**がある広場を右に見て下ると広いマツ林。左手の丘からは富士山が望める。かつてここに天然記念物の富士見のマツがあった所で、その名残の切り株がある。舗装された急坂を下ると**修善寺自然公園のもみじ林**である。大正13年(1924)、修善寺町制施行記念としてカエデ5種類、およそ2000本が植栽されたもので、モミジ林としては伊豆最大の規模を誇っている。秋には大勢のもみじ狩りの観光客で賑わう。園内には**夏目漱石の碑**もある。

真っすぐ下れば公園の駐車場だが途中の三差路を右に上がると**葎原観音堂**があり、33観音が祀られているので寄って行きたい。観音堂の石段を下ると駐車場だ。県道に出れば起終点の**もみじ林前**のバス停。起終点



▲だるま山高原レストハウスからの富士山



▲三等三角点



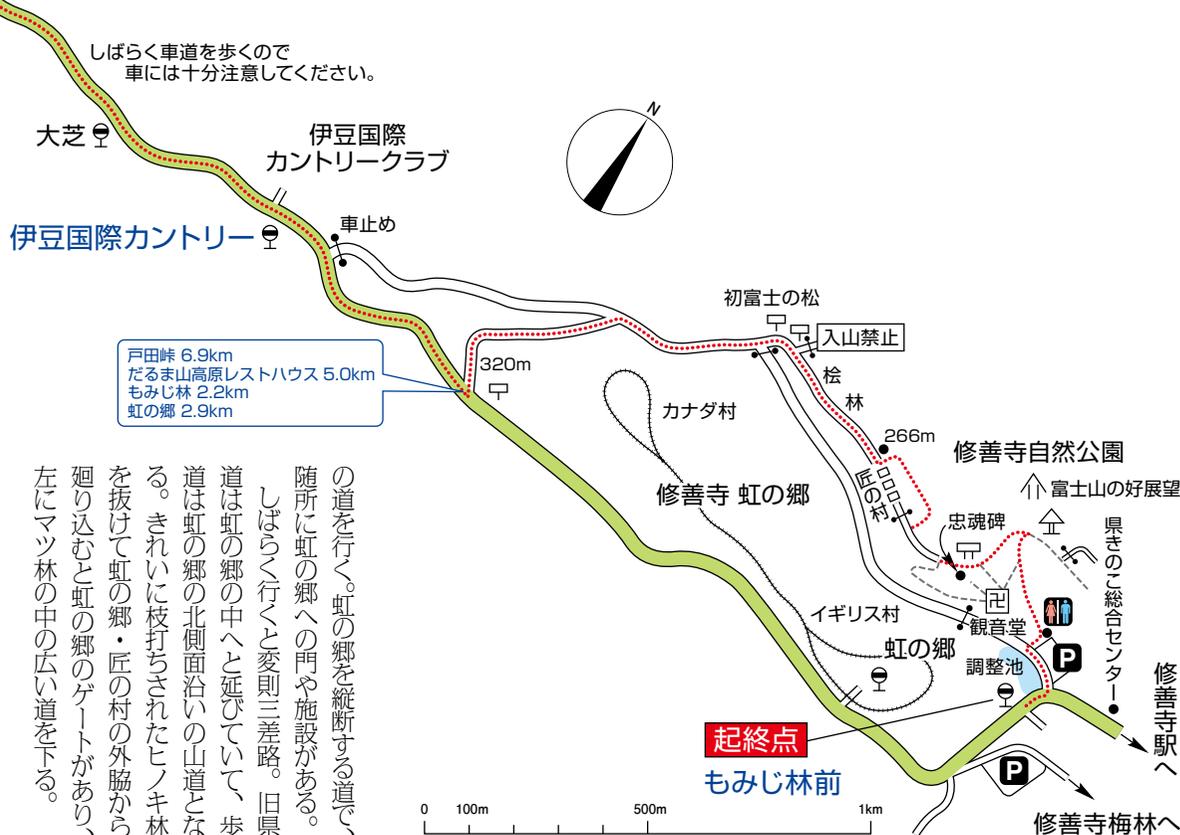
▲稜線を歩く



▲自然公園は紅葉の名所



▲修善寺自然公園からの富士山



の道を行く。虹の郷を縦断する道で、随所に虹の郷への門や施設がある。しばらく行くと変則三差路。旧県道は虹の郷の中へと延びていて、歩道は虹の郷の北側面沿いの山道となる。きれいに枝打ちされたヒノキ林を抜けて虹の郷・匠の村の外脇から廻り込むと虹の郷のゲートがあり、左にマツ林の中の広い道を下る。

防火帯から樹林帯を抜けて伊豆最大のもみじ林へ

5 金冠山・きよせの森

きんかんざん

富士山の絶景地から野鳥・植物・森林浴の森へ

伊豆三絶（伊豆を代表する絶景地三ヶ所）の一つに数えられているのが「だるま山高原レストハウスからの富士山」である。ここを世界に知られた日本一の富士山の展望地として有名にしたのは、昭和14年（1939）に行われたニューヨーク万国博である。ここから写した富士山の大写真が日本の代表的風景として展示されたのである。縦17尺約5尺、横10尺8寸（約33尺）の大写真の全面に孟宗竹を配し、竹林越しに富士山が見られるように展示、大絶賛を博したと伝わる。ここを起点として富士山の好展望地として知られた金冠山へのハイキングコースは子供から中高年まで誰でも歩ける手頃なコースである。

新緑や紅葉の時期も良いが、何より富士山が良く見える秋から冬がいい。また、周辺はマメザクラの名所なので花の咲く4月中旬もおススメだ。コースとしては金冠山からきよせの森を経てだるま山高原レストハウスに戻る周回コースがよい。



▲だるま山高原の富士山

修善寺駅から戸田行きバスで27分、だるま山高原レストハウスで下車。車利用の場合はレストハウスの駐車場（無料）を利用するとよい。県道を少し行くと金冠山への登山口がある。雑木林を登るとすぐに芝生の広場。3〜4月ごろは各種の桜が咲く所だ。金冠山までは広く切られた防火帯の道が緩やかに上っている。富士見コースと呼ばれるように時折、右手の樹林の上に富士山が望める。

道が平坦になると正面に丸い金冠山が見えてくる。辺りはアセビの群生地。3〜4月には垂状の真っ白な花があちこちにこんもりと咲いているのが見られる。マメザクラも多く、4月には辺り一面薄いピンク色で染まる。マメザクラは伊豆地方ではコメザクラともいい、富士山地方ではフジザクラ、箱根地方ではオトメザクラとかハコネザクラとも呼ばれる、直径2センチほどの桜である。防火帯が終わったら管理道（舗装）

を横断し10分足らずで金冠山の山頂に着く。弧を描く駿河湾を全景にした富士山をはじめ愛鷹山、箱根山、遠く南アルプスまで望める。

下りはパラボラアンテナの脇を通り北側の裾を廻り前の麓に出たら、そのまま舗装道を戸田峠へと下る。峠から左に県道を少し下る右手にきよせの森の入口がある。きよせの森は生活環境保全林で83種、1万8000本余りの樹木が植栽されている。保全林に入るとスギ・ヒノキの林で、道とほぼ平行して小さな沢が下っている漂流コース。一帯はマメザクラの群生地。花を愛でながら歩ける。

森はエンジュの森からツバキの森、木の美の森、野鳥の森、クヌギの森などに分かれているが、歩道同様、はっきりした表示がないので、どこをどう歩くか地図を確認しながら、自分は今、どこを歩いているか確認しながら歩いてほしい。……はモデルコース。

だるま池と野鳥の池が一つのポイント。この二つの池には天然記念物のハコネサンショウウオが生息している。森は植物や野鳥観察、森林浴には絶好の場所である。クヌギの森の急な歩道を上がるとだるま山高原レストハウス前になる。



▲ニューヨーク万国博に出品された富士山の大写真（複写）



▲マメザクラ



▲富士見コース



▲金冠山の富士山

6 達磨山

だるまやま

天城峠から西に向かって延びた分水嶺は伊豆山稜線歩道である。伊豆山稜線歩道の西の端にあるのが達磨山である。伊豆では三ヶ所ある一等三角点の一つがあり、その展望の良さから十三国峠とも呼ばれている。

十三国とは安房（現在の千葉県南部）・相模（神奈川県）・武蔵（埼玉県）・甲斐（山梨県）・信濃（長野県）・伊豆（静岡県東部）・駿河（静岡県中部）・遠江（静岡県西部）・三河（愛知県東部）・尾張（愛知県西部）・美濃（岐阜県南部）・伊賀（三重県西部）・伊勢（三重県）である。一等三角点の後の二つは万三郎岳（1405.6m）と南伊豆町と松崎町の境にある暗沢山（520.3m）である。

達磨山の名の由来は、静岡県中部の由比・清水方面から見ると、丁度ダルマさんの姿に見えるという。また、滑っても転んでも、すべに起き上がる山、という説もある。

このコース、戸田峠からだと、終始富士山を背にして歩くことになるので、逆の船原峠から歩いたほうがおすすめだ。

修善寺駅から松崎、または長八美術館行きのバスで28分、大曲茶屋で

所要時間：約3時間40分

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	28分	大曲茶屋	バス	40分	船原峠	50分	土肥駐車場	45分	達磨山	45分	戸田峠	40分	バス	27分	修善寺駅
------	----	-----	------	----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	------



▲達磨山からの富士山



▲沿線から戸田湾を望む



▲達磨山へ向って



▲船原峠の石仏

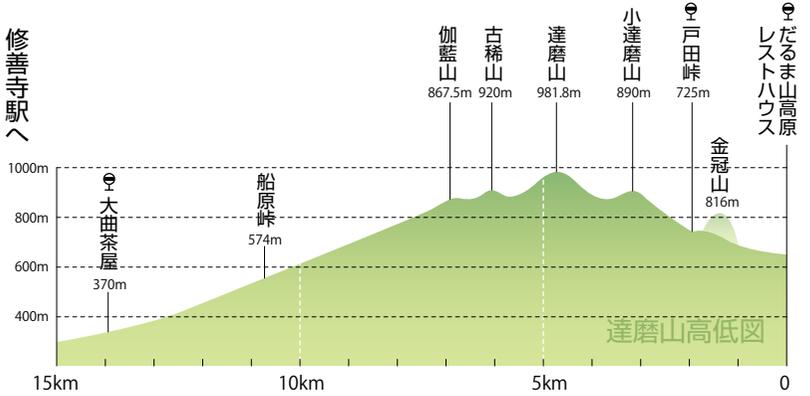
最高峰で天城山、箱根山、南アルプス、丹沢山地、駿河湾と360度の大展望を誇る頂きである。

達磨山は天城四兄弟の長男で、別名万太郎（番太郎）とも呼ばれている。後の三人は万二郎・万三郎・長九郎である。

富士山に向かって下る。左手に弧を描いた入江は戸田湾である。一旦、スカイラインに出て、再びササ原に登る。アセビやイヌツゲの木が目立つ。春には達磨山の斜面はアセビの白い花とマメザクラのピンク色で染まる。

小達磨山を越えて下ると戸田峠に出る。ここで修善寺駅行きのバスを待てばよい。バスの便が少ないので事前に調べておくこと。時間と足に余裕があれば、金冠山を往復してもよい（所要時間は30〜40分）し、だるま山高原レストハウスまで歩いてもよい（約40分）。

富士山の展望を楽しみながらササ原の稜線を歩く



7 コビサワラ原生林

中伊豆地区の真ん中を貫いて流れる大見川の支流・地藏堂川のさらに上流にコビサワラ川があり、近くにほとんど手付かずの原生林がある。天城山の主峰・万三郎岳の北3稜余りの標高7000〜7500級の山中である。コビサワラという、その言葉の意味はどこに聞いても調べても解らない。

フナ、ケヤキ、モミ、ヒメシヤラの巨木にアカガシ、タブノキ、イタヤカエデ、ミズキなどが鬱蒼とした森を作っている。野鳥の数も多く自然観察や森林浴、散策に絶好の所である。



▲ナベワリ

▲ハシリドコロ

また、この原生林の特徴の一つに、日本の**三大毒草**が自生していることがある。トリカブト、ハシリドコロ、ナベワリがあり、特にハシリドコロは群生が見られる。ハシリドコロは山間部の湿った沢筋に自生するナス科の植物で、これほど群生する所は外にない。新緑の頃、柔らかくて美味しそうな葉がでるが、これを間違えて食べると苦しさのあまり走り回って、死に至ることもあるという猛毒の植物である。

しかし、毒と薬は紙一重で、使い方によっては鎮痛剤になる。目薬として瞳孔を広げる作用があるという。いずれにしても素人は手を出さない方がよい。

修善寺駅から伐場行ききのバスで28分、**地藏堂入口**で下車。川沿いにすすんで地藏堂川にかかる滝川橋を渡り、緩やかに上がると**萬城の滝入口**に着く。

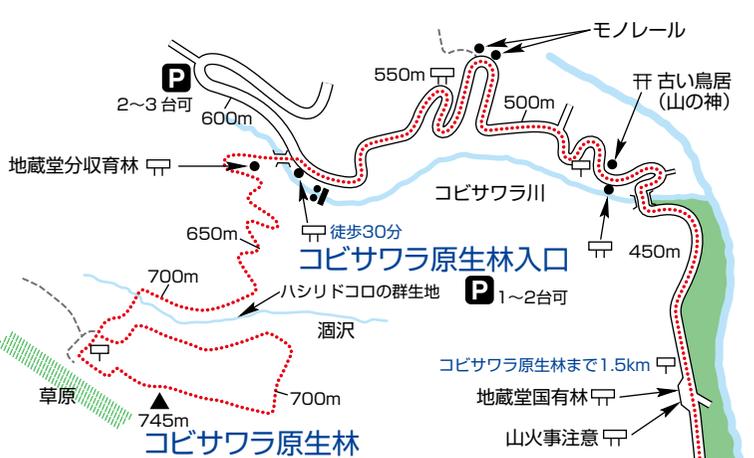
左に入ると市営のキャンプ場で、車利用の場合は、ここに駐車して歩くことになる。(キャンプ場下にも広い駐車場がある・無料)

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	23分
地藏堂	徒歩	20分
萬城の滝キャンプ場	徒歩	15分
(萬城の滝往復10分)		
コビサワラ原生林入口	徒歩	60分
コビサワラ原生林	徒歩	50分
コビサワラ原生林	徒歩	30分
コビサワラ原生林	徒歩	25分

●所要時間
：約3時間50分(往復)

コビサワラ原生林(1周約30分)



▲原生林の巨木を計る



▲小滝



▲萬城の滝



▲萬城の滝キャンプ場



萬城の滝から天城の原生林へ 三大毒草も見られる知られざる森

夏休みにはキャンプする若者や家族連れで賑わう。無料参加できる自然観察会も毎年行われているので、興味ある人は、キャンプ場へ問い合わせてほしい。

萬城の滝は右の石段を下るとある。高さ20m、幅5mの美しい滝で、滝の裏側から眺められる所から裏見の滝とも呼ばれているが、現在は崩壊のため通行不可。夏休みの期間中はライトアップされ神秘的な雰囲気にも包まれる。

30mほど下流に千年木というケヤキの巨木があって、シダ類やカエデ、ツツジ、スギ、カシワ、ツタウルシなど十数種類の着生植物が見られる。気を付けないといけないのがツタウルシで、かぶれ易い人は触ったり近づいたりしない方がよい。

滝の入口まで戻り林道を行く。すぐの広いバスの転回所から右にヒノキ林に入り、川沿いの遊歩道を上って行く。夏なら涼しい風が気持ちよい道である。

大きな堰堤を見ればはるか上流と水量の多い**小滝**にぶつかる。小さいながら迫力のある滝である。ヒノキ林を抜けると再び林道に出る。右に道なりに進み、どこまでも続くわさび田を見ながら舗装道路を緩やかに上って行く。

萬城の滝からおおよそ1時間でコビ

サワラ原生林の入口。車利用で原生林だけ歩くのであれば、少し先の路上や周辺に駐車ができるが、切り出した材木を運搬する大型トラックが時折り通ることがあるため、おすすめはできない。

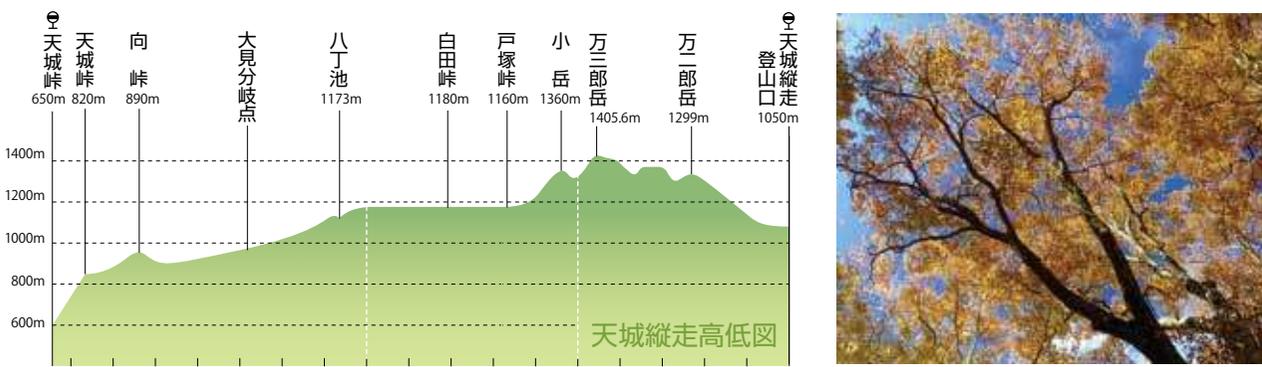
コビサワラ川を渡りスギ・ヒノキの人工林に入る。木の根元に青いネットが巻かれているが、これはシカに食われないためのものである。緩やかにジグザクと上る。足元のフキのような葉の植物はイヌカニコオモリ、道には黒曜石(火山の噴出石)が見られる。

マツが目立つようになると左下に涸れた沢を見下す所に来る。その沢筋に群生する植物が目立つようになる。ハシリドコロである。4月頃にはナスの花に似た暗緑紫色の花が咲き、花が終わると嘘のように何もなくなってしまう。

少し上って酒沢を渡り、スギ・ヒノキの林を抜けると原生林の端に出る。ロープ柵に従い林内をぐるりと一周して来よう。高低差も少ないので気軽に森林浴や自然観察が楽しめる。トリカブトのほかシキミヤンルシキミなどの毒草もあるので要注意。木の実・草の実にはやたらと手を出さないように。

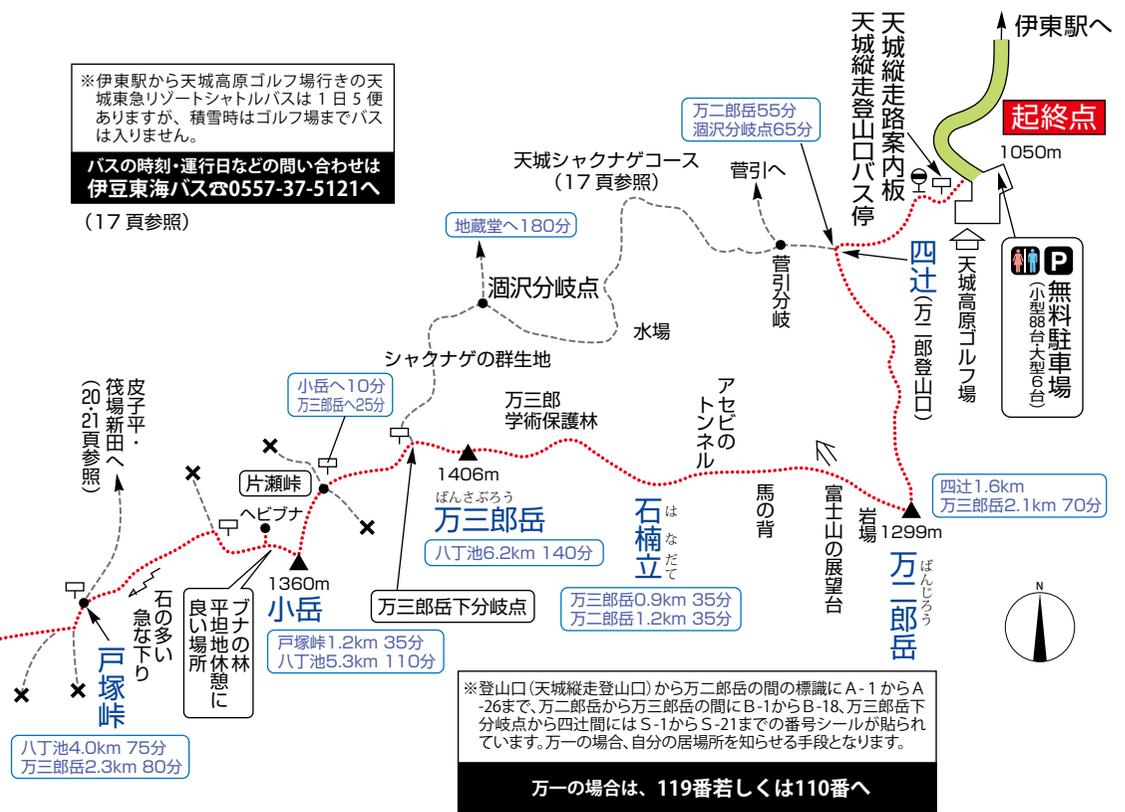
帰りはもと来た道に戻る。

9 天城縦走



コースタイム(参考) 所要時間：約8時間 (逆コース：約8時間30分)

伊東駅	バス	55分	天城縦走登山口	四辻(万二郎岳)	20分	万三郎岳	60分	石楠立	40分	万三郎岳	40分	片瀬峠	30分	小岳	15分	戸塚峠	40分	白田峠	35分	八丁池	50分	大見分岐点	45分	向峠	30分	天城峠	20分	旧天城トンネル	20分	天城峠	10分	バス	43分	修善寺駅



天城縦走コースの起終点は天城縦走登山口と天城峠である。図で解るように、ゴルフ場側からの方がいくらか楽である。交通の便からもゴルフ場から登る人が多い。

伊東駅から天城高原ゴルフ場行き为天城東急リゾートシャトルバスで55分、天城縦走登山口で下車。バスは積雪時は運行されないのに注意が必要。(17頁参照)

○バスのお問い合わせは伊豆東海バス ☎0557-37-5121

天城縦走路の案内図から人工林の中に入り、万二郎岳から万三郎岳、万三郎岳下分岐点までのコースは16頁「天城シャクナゲコース」を参照。シャクナゲコースと分かれ、万三郎岳下分岐点の案内図から左に片瀬峠に向かう。道標・案内図はこの先、各峠にも設置されているので自分のいる位置が確認できて安心できる。ブナ林を下り10分くらいで片瀬峠。案内図がある。ブナ林を行くとすぐに小岳。天城山の中でも特にブナの美しい林である。右へ折れて少し下るとへびブナへの入口。素直に伸びたブナと違いくねくねとへびの様に曲がっている特異なブナである。戸塚峠に向かうと下りがきつくななり、ブナに混じってヒメシヤラも目立つようになる。足元には石も多々へ

その上、木の根が張って歩いて歩きにくい下りだ。平坦な道になると戸塚峠。案内図とベンチがあるので一休みしてこよう。右に下る道は皮子平へ下るコース。体力と時間が許せば1時間程度で往復できる。20頁「皮子平」参照。

白田峠までは起伏が少なく歩き易い。ブナやヒメシヤラに混じってアセビが目立つ。白田峠を過ぎるとカエデも多くなり、初夏には目に染みるような新緑、秋には燃えるような紅葉が楽しめる。

与市坂への分岐を右に見て緩やかに下り、「下り八丁池歩道」の入口を見るときは八丁池に飛び出す。八丁池の詳細は34頁「八丁池」、または「野鳥の森・八丁池」を参照。トイレから展望台を往復したら少し下って佐賀野入歩道・「上り御幸歩道」に入り天城峠へと向かう。34頁「八丁池」の逆コースを行くことになる。天城峠のバス停まで2時間かかる。万一の場合、大見分岐点から水生地歩道を利用すると時間短縮ができる。

このコースは全長約17km、所要時間約8時間の健脚向きコース。天城峠からのバスの終便も早いので、心して歩かなくてはならない。

起終点
1日2回
バスのお問い合わせは
090-677-7674
伊豆箱根バス



車で28分、終点で下車。県道を上がり小嵐橋から左に杖場林道に入り、舗装された道を右・左にわさび田を見ながら上って行く。御礼杉の所に車止めのゲートがある。バス停から約2.5kmの地点。一般



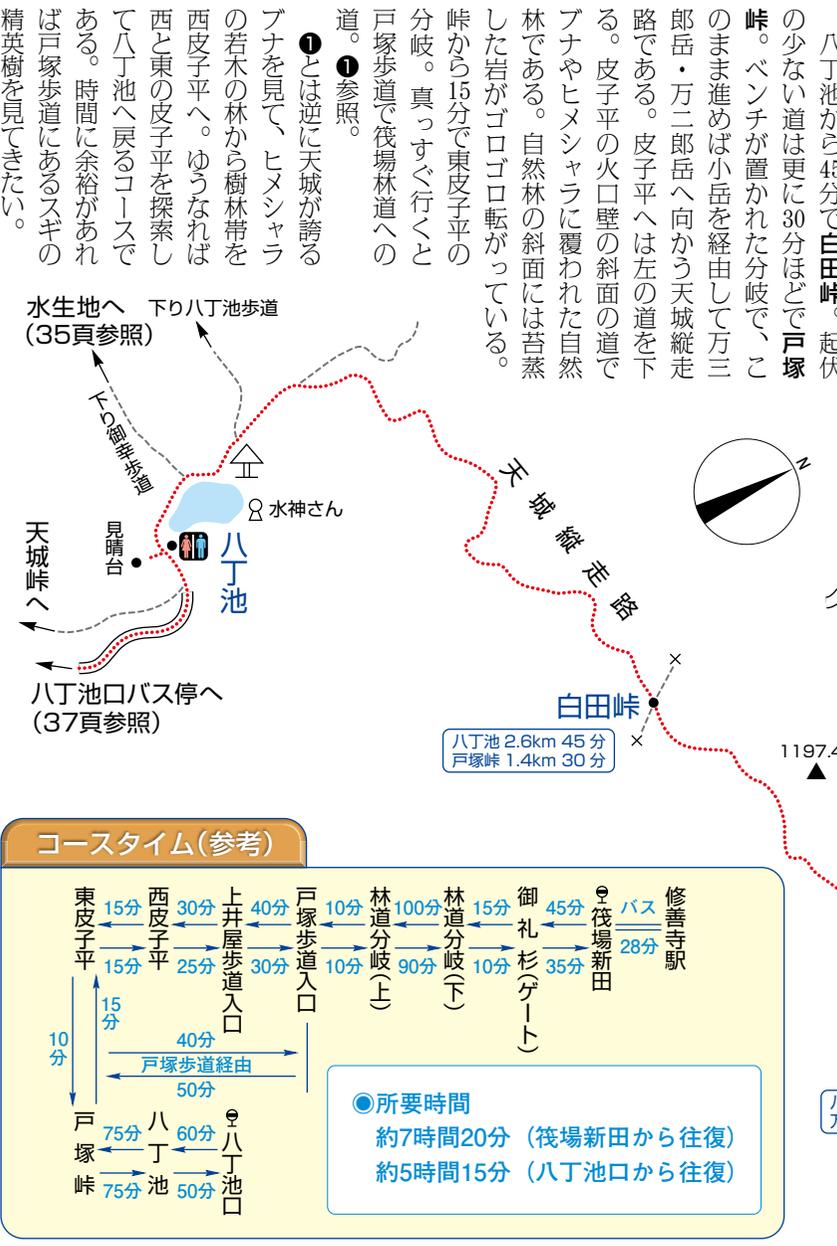
▲皮子平

① 杖場新田からのルート

皮子平へのルートは、二つある。一つは杖場新田から杖場林道を經由する(往復約20km、約7時間20分)のルート。二つは八丁池口から(往復約5時間15分)のルート。

② 八丁池口からのコース

37頁「野鳥の森〜八丁池」のコースを利用して八丁池へ。天城縦走路に入り、左に「下り八丁池歩道」の入口を見送る。与市坂の分岐を見、ブナやヒメシヤラの深い樹林帯の平坦な道を行く。単調な道ではあるが、新緑・紅葉の時期は天城らしさの自然が十分味わえるところである。



コースタイム(参考)

修善寺駅	杖場新田	御礼杉(ゲート)	林道分岐(下)	林道分岐(上)	戸塚歩道入口	上井屋歩道入口	西皮子平	東皮子平
バス 28分	45分	35分	10分	100分	10分	40分	30分	15分
	伊豆箱根バス							
	約7時間20分 (杖場新田から往復)							
	約5時間15分 (八丁池口から往復)							

●所要時間
約7時間20分 (杖場新田から往復)
約5時間15分 (八丁池口から往復)

車は通行止めのため車利用の場合、ここから皮子平まで約8kmある。簡易舗装された道を少し上ると最初の林道分岐。真っすぐ行くと杖場林道。車止めの右は軽石林道。杖場林道はどちらかと言うと谷筋のコースで軽石林道は尾根筋のコース。どちらを行っても距離・時間に大差ない。ここでは杖場林道を行く。未舗装の単調な林道であるが、新

天城の自然が凝縮された、とっておきの秘境

緑の季節や紅葉の季節には、その美しさに目を奪われる所がある。唐沢橋、富士見橋(ゲートから約4km地点)などの橋がチェックポイントになるので注意して歩こう。軽石林道と合流する三差路(ゲートから約5km)辺りから晴れていれば富士山が望める。分岐を左に折れると、すぐにかつての軽石の採石跡の広場。すぐ上に戸塚歩道の入口がある。帰りはここに帰っていく。林道を更に上る。戸塚林道を左に見送り、なおも進むと棚沢橋の手前の広場に出る(ゲートから約7km)。橋を渡った左に道標。皮子平まで3分とある。

間伐されたヒノキがそのまま放置されている林を通り、洒れた棚沢を渡ったら右へと登る。樹林帯を道なりに登るとスギ林になり道が緩やかになると左下に水溜りが見える。通称「幻の池」と呼ばれ、イノシシの又々場となっている。周辺の岩が緑色に苔蒸し、かつての炭焼き窯跡も目につく。ロープ柵が見られるようになると皮子平だ。前がバツと開け、明るい平地に出る。西皮子平である。かつての皮子平火山の噴火口の一つで、周囲は樹木に囲まれて丸く窪み、アセビやカマツカ、ミヤマイボ

タなどの小灌木が生えている。初夏に訪れると、西皮子平を囲む山肌にはマメザクラが咲く。シカの防護柵を右に見て進むとブナやヒメシヤラ、カエデなどの樹林帯に入る。相変わらず苔蒸した岩が多く、ロープ柵に導かれて道なりに進むとブナに混じってヒメシヤラの若木の見事な林が続いている。その先に天城が誇るブナの巨木があり、この辺りが東皮子平である。三差路で右へ20分ほど登ると天城縦走路の戸塚峠。左に戸塚歩道を行く。ロープ柵はすぐになくなるので、踏み跡をよくみて歩こう。やがてスギ・ヒノキの鬱蒼とした林となる。スギ林の中に、ひとときわたくて立派な巨木・精英樹がある。精英樹とは、すぐれた特性を持つ優良樹のことで、天城山中の植林されたスギは、この精英樹から採ったタネから生まれたものである。アマギシヤクナゲが目立つようになると炭焼窯跡がいくつかあり、スギ林を抜けると前に見送った林道の戸塚歩道入口に出る。「杖場新田9km 戸塚峠2km」の道標がある。帰りは前に歩いた杖場林道を下るかまたは軽石林道を下ってもいい。ほぼ一本道で分岐さえ間違えなければ杖場新田に出る。国土地理院の2万5000分の一の地図は必携だ。

12 天城遊歩道

天城山に降った雨は本谷川を流れ、猫越川と湯ヶ島温泉で合流して狩野川となる。天城遊歩道はその少し上流、本谷川にかかる瑞祥橋を起点として、上流の伊豆一の名瀑・浄蓮の滝までのおよそ3.5kmの自然遊歩道である。

修善寺駅から昭和の森会館行き、河津駅行き、湯ヶ島温泉行きのバスで29分、湯ヶ島温泉口で下車。元旅館眼雲閣落合の前を通り国道から右に少し急な坂を下り瑞祥橋を渡った所がこのコースの起点である。真っすぐ行くと湯ヶ島温泉・世古峠方面。

案内板を見て舗装道の緩い坂を上る。左下に風情あるつり橋(向山橋)がある。



▲水恋鳥広場近くのダム

こう。ここも「湯道」(22頁参照)のコースの一部となっている。真っすぐ緩やかに上って大滝梅園への分岐を左に行く。元民宿きのこ荘の前を通ると舗装道の終点。左に細い道を下れば本谷川の河原に出る。前方に大きなダムが見える。ダムの鉄階段を上って降り、木の小さな橋を渡ると水恋鳥広場。親水公園となっていて、夏には水遊びをを楽しむ家族連れで賑わう所である。広場の一角に与謝野晶子の歌碑がある。昭和10年船原温泉に滞在し多くの歌を残した内の一首。



▲五所平之助の句碑

岩尾ダムの大きな壁にぶつかり左にダムを越えて川沿いに上る。丸太木橋の橋を渡り渚木の繁る山道を上ると国道に出る。バス停「天城山荘」の所である。横断歩道を渡り石段を上ると石仏のある広場。シカの角のような形をした白い碑がある。映画「伊豆の踊子」の第一回監誓であった五所平之助の句碑である。

- 第一回 昭和8年 田中絹代
- 第二回 昭和29年 美空ひばり
- 第三回 昭和35年 鰐淵晴子
- 第四回 昭和38年 吉永小百合
- 第五回 昭和42年 内藤洋子
- 第六回 昭和49年 山口百恵

舗装道を緩やかに上り、国道を横断して、少し先で再び国道に出たら右に2〜3分歩けば浄蓮の滝入口。風情ある茶屋「踊子茶屋」がある。伊豆の踊子像の所から石段を下って伊豆一の名瀑・浄蓮の滝へ行ってみよう。途中に浄蓮の滝資料館(有

料)があるので興味ある人は寄ってみるとよい。うっそうとした樹林を下ると柱状節理の岩にかかる高さ27m、幅7mの浄蓮の滝。石川さゆりが歌う演歌「天城越え」の歌碑もある。滝の岩肌に残っているのは天然記念物のハイクモチシダ(ショウレンシダとも言つ)で、分布の最北端といわれている。

浄蓮の滝には女郎蜘蛛の民話がある。滝の近くで野良仕事をしていたおじさんが、一服していると、どこからか一匹のクモが現れ、足にクモの糸をかけているのを見つけた。何をしているのか、特に気にしていなかったが、しばらくしてふと見るとまたまた現れては何度も糸をかけていた。そろそろ仕事にかかるか、とクモの糸を近くの大木にひっかけ、野良仕事を続けていると、滝の方からバリバリドーンという音がした。近づいてみると何となく大きな木が滝に引き込まれていた。おじさんはびびり、野良仕事もそこそこ家に帰ったという。常設のマス釣り場があり、下流には緑のワサビ田が広がっている。急な石段を戻って天城遊歩道は終点となる。ここは「踊子歩道」の起点である。(33頁参照)

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	湯ヶ島温泉口	5分
湯ヶ島温泉口	バス	修善寺駅	29分
湯ヶ島温泉口	瑞祥橋	5分	
瑞祥橋	水恋鳥広場	15分	
水恋鳥広場	天城山荘	20分	
天城山荘	浄蓮の滝	10分	
浄蓮の滝	修善寺駅	35分	

往復15分 | 浄蓮の滝

所要時間：約1時間5分



▲浄蓮の滝



▲伊豆の踊子像

14 かの狩野城跡

狩野城跡は伊豆半島の中心部・伊豆市のほぼ中央に位置し、国道136号線、清流狩野川と柿木川との合流点に隣接する標高189mの小高い丘にある。**狩野城**は平安後期(1100年頃)より室町時代後期の15世紀末までの約300年間に互り伊豆の豪族・**狩野氏**の居城で、今なお明瞭に遺溝を残す中世の山城である。東側は狩野川の断崖に、北側は柿木川、南側は北沢川とそれぞれ侵食された急斜面をもち、三方を遮断された天然の要塞である。展望も良く、田方平野から箱根連山、天城連山が望め、下田街道を監視することもできた伊豆の南北を結ぶ要衝であった。城跡は標高189mの「中郭」を中心として北東方面に「東郭」と「出丸」、南方に「南郭」、西方に「本郭」と「西郭」を擁し、それらは大空堀や二重堀、堅堀などで仕切られ、その周辺には無数の土塁や堀切りなどがめぐらされている。

足利幕府、織田、豊臣、徳川幕府と数百年にわたり、御用絵師として活躍した**狩野派**は、この狩野一族から生まれている。

平成13年から16年にかけて、この周辺の森約16ヘクタールを**狩野城跡生活環境保全林**として、遊歩道や花



▲森の中の遊歩道



▲狩野川畔から見た狩野城跡



▲題目堂



▲中郭の広場

木を植栽して整備してきた。併せて災害防止のため数箇所には谷止工が造られている。

城跡の遊歩道を利用して歩けば、歴史の息吹と四季折々の自然が楽しめる。

修善寺駅から湯ヶ島温泉行き、昭和の森会館行き、河津駅行きのバスで15分、**柿木橋**で下車する。車利用の場合は柿木橋を渡って右へ500m行った所の**本柿木農村公園**に駐車できる。ここに狩野城跡の説明板がある。「この狩野城跡は、平安末期(1100年頃)、狩野氏によって築かれた城の跡である。標高190mの城域には、鎌倉時代に発達した

二重堀を備え本郭・西郭・南郭・中郭・東郭・出丸に区分される。中世山城の遺溝が、築城千年近くも保存されている重要な史跡である。

狩野氏は祖・狩野維景(これかげ)が駿河の守を退任し、初め、市内日向に館を構えたが、その子・狩野維職(これもと)が伊豆押領使を務めるなど、軍事上の必要もあり要書の地を選んで、この地に移った。最初の城主は二代維職か三代維次(これつぐ)と思われる。

維景から五代の孫・茂光(もちみつ)は、その子・親光(ちかみつ)と共に源頼朝に従い、治承四年(1180)石橋山の合戦で敗北自刃したが、子孫は鎌倉・室町両幕府に伊豆を代表する武将として仕えた。

明応二年(1492)からの北条早雲の伊豆侵攻の折、城主狩野道一(どういつ)は足利方に付き戦い、明応七年に敗れて開城した。その後、一族は小田原に移り、後北条氏の重臣として要職を歴任している。

室町時代中頃から絵師として栄えた、狩野派の初代狩野正信(まさのぶ)は、維景から十一代の孫である。

伊豆市教育委員会

柿木橋のたもとに狩野派発祥の地を知らせる大きな看板がある。橋を渡った右手に案内図があり、石段か

丸太の段を上る。急な丸太の段から振り返ると国道136号線と狩野川が一望できる。上り切ったテラダ松の林を抜けると城山下の分岐。左にシグザグと上ると**森林学習空間の森**。南側から上がってきた道と合流して右に上がると**出丸跡**。この辺りうっそうとした森の中である。

丸太の段を下って上り返し右に**東郭**を見送ると、すぐに左に丸太の段がある。上れば武将の霊を祀ったという**題目堂**。

前方に見える**中郭**が、この城跡の最高点である。周辺は芝生広場となっているのでお弁当を広げるには最適な場所である。戻って**本郭跡**から樹林帯を歩けばクヌギ林の四つ角にぶつかる。右へ行けばヤマボウシが植栽された広場で、眼下に田園風景が広がっている。雑木林を下げれば桜ヶ洞の堰堤を越えて**本柿木農村公園**に出る。休憩舎で一休みしたら堀を巻く山道を進んで**城山下**の分岐を過ぎ、そのまま真っすぐ行けば、前を通った道を**柿木橋**へ下る。随所に道標があり、ぐるりと一周しても1時間もあれば十分回って来られる。

農村公園から市道を600mほど行くと**法泉寺**の天然記念物の**しだれ桜**がある。3月下旬には桜まつりも催され、多くの花見客が訪れる。

伊豆の豪族狩野氏300年間勢力を奮った山城 狩野一族から御用絵師として狩野派が誕生

15 太郎杉歩道

太郎杉は天城一のスギで、幹回り97.3㍍、高さ53㍍、樹齢450年の巨木である。静岡県のスギの巨木ランキングでも1位の河内の大杉(沼津市西浦市民の森)に次ぐ巨木で県の天然記念物に指定されている。

森の巨人たち・巨木100選(巨樹・巨木を考える会・講談社)にも選ばれている。

修善寺駅から昭和の森会館行き、または河津駅行きのバスで38分、昭和の森会館で下車。時間がない時は滑沢渓谷までバス(河津駅行きのバスで39分)で行ってもよい。

昭和の森会館は道の駅・天城越えとなっていて、会館のほか伊豆半島ジオパーク 天城ビジターセンター、レストラン、天城わさびの里(直売所)、竹の子あささんの店、井上靖旧邸・グリーンガーデン(シャクナゲの森)などがある。会館の中には**森の情報館(無料)**と**伊豆近代文学博物館(有料)**があるので歩く前に見学していきたい。道の駅の前にある**グリーンガーデン(入園無料)**には、3月にはエドヒガンザクラの巨木が薄ピンク色の花をつける。また、5月には500種・1万3000本のシャクナゲが次々と咲く。このほか季節の草花が沢山

植栽されているので、花好きには見逃せない所である。園内の遊歩道の展望所からは富士山も望める。

カエデが植栽された会館の庭先を突っ切る。秋の紅葉のシーズンには紅葉狩りの観光客で賑わう所だ。

中ほどに**御礼杉**の説明板がある。目の前のグリーンガーデン内にある御礼杉のごとで、次のように書かれている。「天城七木制」と言われる禁伐制度がありました。山付きの部落に雑木や下草を利用させた際、その開けた跡地に杉を植えるという森林保護を目的とした政策造林を行っていました。しかし、幕府の強制的な造林だったこともあり、不満を抱える村民の心情を和らげようと幕府は、森林に対する感謝の意を示す御礼の杉である(御礼杉)と伝えたと当時の村名主が記録を残しています。

天城山にはこうした御礼杉がおおよそ150本あり、県道の向側にある数本の杉大木もその一部です。古いものは樹齢200年以上を数えるものもあります」

山神社を右に見て、樹林帯を行くと天城旧街道の説明板。小さな沢を渡って石段を上がると



▲御礼杉



▲太郎杉



▲滑沢渓谷



▲滑沢渓谷の紅葉

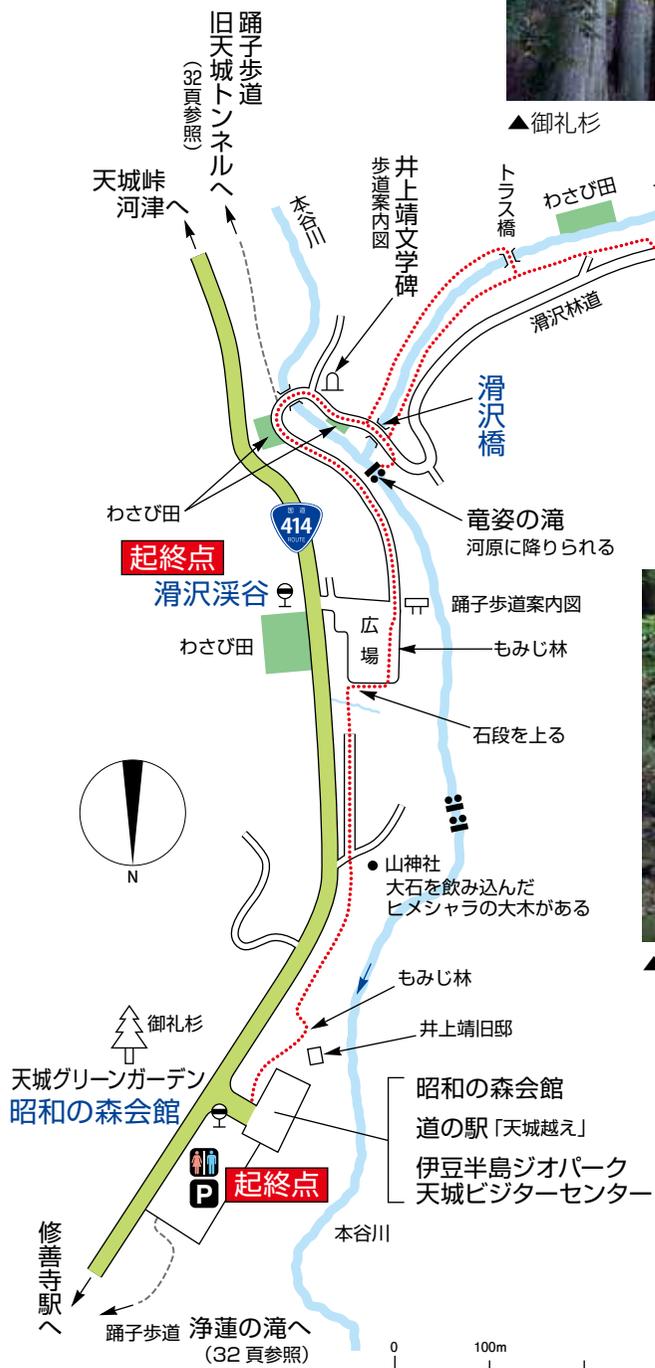


▲竜姿の滝

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	30分	滑沢	バス	38分	修善寺駅
修善寺駅	バス	39分	滑沢渓谷	バス	38分	修善寺駅
修善寺駅	バス	35分	太郎杉	バス	25分	修善寺駅
修善寺駅	バス	39分	滑沢橋	バス	15分	修善寺駅
修善寺駅	バス	35分	滑沢	バス	15分	修善寺駅

●所要時間：約1時間15分



一枚岩の美しい渓谷を巡り 天城一のスギの巨木・太郎杉へ

カエデが沢山植栽されている広場に出る。その端にある踊子歩道の案内図を見、右下に本谷川を樹間越しに見ながら行くと滑沢渓谷の説明板がある。橋を渡ると正面に井上靖の「狹銃」の文学碑。

道は左右に分かれているので右へ行く。左の道は行き止まりだが、少し入った所は紅葉の名所なので、季節にはちょっと寄り道してもいい。わさび田のすぐ先に滑沢川にかかる滑沢橋。上流を見ると一枚岩の上を滑るように流れる沢が見て取れる。下流を見ると流れによってできたポットホールがいくつも見られる。ポットホールとは岩の窪みに右が流れ込むと、水流で窪みの中で石が回転し、お互いに削れて、窪みが深くなり、石は丸くなる。これですきた穴を言う。ポットホール内に

あった玉石は激しい水流によって飛び出してしまっていないが、伊東市城ヶ崎のかんのん浜には巨大なポットホールがあり、直径70㍍の玉石が残っている。

滑沢川の downstream で右手から流れ込む本谷川と合流した所に**竜姿の滝**がある。竜姿の滝へは林道から歩道があるので行ってみよう。透き通った水に手を入れると切れるように冷たい。上流にわさび田があり、人の手やシカ、イノシシなどの動物が入っている。水は飲まない方がよい。歩道は滑沢川の両岸につけられているので、どちらを行っても途中で合流する。一旦林道に出て、しばらく行って再び川沿いの道を行き、また林道に出たら、そのまま林道を歩く。大酒沢橋を渡ってなかも進むと太郎杉の上り口に着く。説明板の横にかつて募集した俳句が刻まれた石碑がある。

右奥を見上げると**太郎杉**の巨大なスギが目にとびこんでくる。下から見るとさして大きく見えないが、そばに近寄ってみると、その大きさに圧倒される。保護のため樹の根元まで行かないように柵がしてあるので入らないように。

帰りは元来た林道を進んで滑沢渓谷のバス停、または昭和の森会館へ戻る。

16 踊子歩道

踊子の面影を追って 名作の詩情あふれる旧天城街道へ

川端康成の名作「伊豆の踊子」の書き出しは天城峠であるが「踊子歩道」の起点は浄蓮の滝である。できれば二つ手前のバス停「天城山荘」で下車して、第一回「伊豆の踊子」の映画監督である五所平之助の句碑を見ていきたい。詳細は24頁「天城遊歩道」の項を参照。

浄蓮の滝までの交通は修善寺駅から昭和の森会館・河津駅行きのバスで35分。浄蓮の滝で下車したら日本の名瀑100選に選ばれた浄蓮の滝を見てみよう。入口に「伊豆の踊子像」がある。

踊子茶屋の前から旧天城街道（下田街道）に入る。穂積忠の歌碑見てさびに進むと島崎藤村の文学碑。国道に出る手前のスギ林を左に行くと横光利一の文学碑がある。

スギ林を抜けた所に今上天皇が皇太子時代に、天城を訪れた時のお手植えの杉がある。渚木の中の水路沿いに行き丸太の段を国道に降りる。国道を横断してスギ林を抜

けると道の駅「天城越え」・昭和の森会館に出る。森林博物館（無料）と伊豆近代文学博物館（有料）を見学していこう。国道の反対側にはシャクナゲの森があるグリーンガーデンがある。

駐車場の端からカエデや林・杉・松の林を抜けると広場に出る。滑沢渓谷への林道に入り、川沿いに進めばわさび田がある。橋の向こうに井上靖の文学碑が見える。

コースは橋の手前から丸太の段を上がる。本谷第3砂防ダムを見てしば



▲伊豆の踊子像

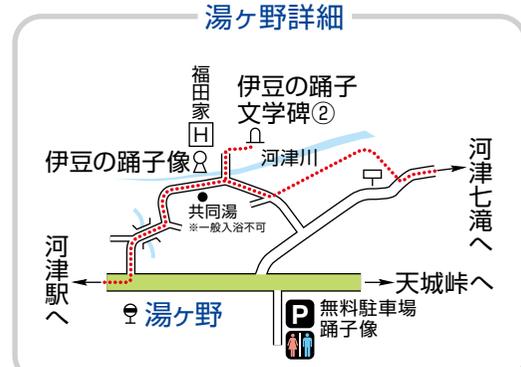


▲旧天城トンネル



所要時間：約6時間25分

修善寺駅	バス	35分	浄蓮の滝	50分	宗太郎園地	55分		
二階滝園地	35分	天城遊々の森	40分	伊豆の踊子像	35分	湯ヶ野	5分	
旧天城トンネル	30分	昭和の森会館	25分	水生地	25分	河津七滝	5分	
湯ヶ野	5分	伊豆の踊子文学碑	35分	大鍋橋	25分	湯ヶ野	5分	
河津駅	バス	14分	伊豆の踊子像	35分	大鍋橋	25分	湯ヶ野	5分



「伊豆の踊子文学碑」を見て白橋を渡ると水生地。つづら折りの道を行くと旧天城トンネルだ。トンネルに入るとヒンヤリと冷たい。踊子が歩いた当時は真っ暗であったが、今はしなやかな明かりがあるので歩きやすい。トンネルを抜けるとつづら折りの下り道。寒天橋を過ぎると二階滝。新緑の中に白い滝が落ちていて様子は、心洗われる思いがする。さらに旧街道をしばらく行くと右へ降りる細い道の分岐。これを下り国道を横断して杉・松の林に入る。河津川にかかるトラス橋手前から左に行くと平滑の滝があるのを見ていこう。

トラス橋を渡ってしばらく下ると林道に出る。左に林道を下れば宗太郎園地。ここからしばらく美しい杉並木が続く。

猿田淵から降りるルートへの入口を見送ると河津七滝の釜滝へ下る道がある。260段の急な階段を下ると釜滝。歩道に従ってエビ滝・蛇滝を見て初景滝へ。ここには「踊子と私」の像があり、絶好の記念写真のポイントだ。

舗装された道をカニ滝・出合滝と見学し、戻ってループ橋の下を

踊子歩道は随所に道標もありコースもしっかりしているので安心して歩けるハイキングコースであるがコースがおおよそ18.5kmと長いので湯ヶ島温泉か七滝温泉、湯ヶ野温泉に二泊して森林浴と温泉浴を楽しんで歩いてほしい。

★ 踊子歩道は平成27年に新日本歩道紀行『文化の道100選』にも選ばれている。

18 野鳥の森から八丁池

天城山自然休養林「昭和の森」は昭和天皇在位50周年を記念して、昭和53年（1978）に林野庁が国内数箇所指定した、広く国民が豊かな自然とのふれあいや、自然に親しめるレクリエーションの森である。

広い休養林の一角にある「野鳥の森」はブナやヒメシヤラ、アセビ、カエデなどが繁る自然林。年間を通じて64種の野鳥が飛び交い、さえずっている。コルリ、オオルリ、ウグイス、アカゲラ、アオゲラ、ミジロコマドリ、エナガ、ホトトギス、シジュウカラ、ヤマガラなど。

野鳥の森への起点は八丁池口のバス停。専用バスまたはタクシー以外は通行できないので、車利用の場合は水生地下か二階滝の無料駐車場に置いて専用バスで入ることになる。

八丁池口行きのバスは第一便は修善寺駅から出るが2〜5便は昭和の森会館から出ている。ただし、季節運行のため運行日を確認のこと。

修善寺駅（昭和の森会館）から八丁池口行きのバスで1時間13分（32分）、終点で下車。山小屋風の待合所とトイレがある。帰りのバスの時間を確認しておこう。



▲見晴台からの八丁池 富士山も望める

コースタイム(参考) 歩程約2時間30分(往復)



▲ブナ林を歩く (佐賀野入歩道)



▲野鳥の森を歩く

かの上っていく。三筋山への分岐を右に見送ると15分ほどで「コルリ歩道」の入口。今までの人工林・灌木林からがらりと変わり、ブナとヒメシヤラの森となる。ここからが野鳥の森。野鳥散策路全長2.5kmには、それぞれ名前がつけられている。林道からコルリ歩道を5分も登れば、再び林道に出る。すぐ右にオオルリ歩道入口。休憩舎があり、中に木の葉の説明板がある。美しいブナ林を登る。ちょっときつい登りなので、足腰に自信のない人は寒天林道を行ってもよい。

15分ほどで「青スズ台」の展望所。河津や下田方面、伊豆七島が望める。青スズ台歩道を下ればまた林道の広場に出る。広場には野鳥図板がある。灌木林に入るとすぐ左に「佐賀野入歩道」。天城トンネルから「上り御幸歩道」経由で八丁池を目指すところに来る。(34頁参照)。八丁池口まで戻るコースもこの道である。帰りはここを下る。



▲八丁池の水神さん

野鳥の声を聞きながらブナの森を散策して天城の瞳・八丁池へ

八丁池口行バス時刻表

修善寺駅発	8:40				
昭和の森会館発	9:21	10:41	13:35	14:50	15:40
天城峠発	9:26	10:46	13:40	14:55	15:45
踊子歩道二階滝口発	9:09	10:49	13:43	14:58	15:48
八丁池口着	9:53	11:13	14:07	15:22	16:12
八丁池口発	9:56	11:16	14:10	15:25	16:20
踊子歩道二階滝口発	10:00	11:40	14:34	15:49	16:44
天城峠発	10:23	11:43	14:37	15:52	16:47
昭和の森会館着	10:28	11:48	14:42	16:00	16:55
修善寺駅着				16:38	17:33

◎: 4~10月の土休日とGWと11/1~30運行
 ●: 6~10月の土休日と11/1~30運行
 ☆: 4~5月の土休日とGW運行
 ★: 4~5月の土休日とGWと11/1~30運行
 ◇: 11/1~30運行
 平成28年4月1日現在
 時刻表は変更となる場合がございますので、お問い合わせください。
 河津駅発は特定日運行のため下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ先/新東海バス ☎0558・72・1841
 寒天橋から八丁池口の間は専用バス道路のため一般車の通行はできない。
 タクシーは可なので早朝やバス連休日の場合、河津駅から八丁池口までタクシー利用が便利。

八丁池はその周囲が八丁(約870m)あることからこの名がある。湖畔には昭和5年(1930)6月に昭和天皇が訪れたのを記念して

展望台に上がると360度の展望が得られる。目の前に広がるブナの林、その中に青く澄んだ八丁池、ブナ林の上に雪を被った富士山が望める。

また、八丁池口まで来てバスに合わなかったら、そのままバス道を二階滝(バス停)まで歩けばよい。八丁池には休憩舎があるのみで売店はないので弁当・水筒は必ず持っていく。

建てられた行幸記念碑がある。池の北側には龍がまつわりついた水神さん(弁財天)も祀られている。対岸には弁財天(線刻石仏)もある。八丁池は天然記念物のモリアオガエルの産卵地としても知られ、5〜6月頃訪れると、池に張り出した木枝に白い花が咲いたような卵塊が見られる。

20 伊豆山稜線歩道(1)

さんりょうせん

天城峠〜風早峠

最も天城らしいブナ・ヒメシヤラの樹林帯から、ササ原の広がる西天城高原へ

伊豆半島の中央部にU字形をしてぐるりと連なる天城分水嶺は6市町にまたがり、総延長約60kmある。北東部の天城山(万三郎岳)は日本百名山に選定され、多くのハイカーが訪れるが、北西部から北に伸びた伊豆山稜線は交通の不便さもあって訪れるハイカーは少ない。

伊豆山稜線歩道は天城峠から猫越岳、仁科峠、魂の山、棚場山、達磨山、金冠山を越えて修善寺自然公園まで42kmあり、一気に縦走するのは難しいので、途中のポイントから麓に下って宿泊する必要がある。麓までの往復は、距離が長いので宿からはタクシーなどを頼むことになる。

修善寺駅から河津駅行きのバスで43分、天城峠で下車。新天城トンネルから急坂を登り旧天城トンネルに出たら、更にトンネル脇から天城峠に登る。登り切るとT字路。左に行くと八丁池・天城縦走コース。山稜線歩道は右に行く。稜線の北面を行く平坦な道で古峠を通り天城峠から1時間20分

ほどで二本杉峠。幕末開港をめぐって数多くの歴史上の人物が往来した旧天城峠である。この分岐を右に下ると天城遊々の森、左に下ると河津七滝・湯ヶ野へと行く(現在通行止め)。いわゆるこの道は古い天城街道で「日本の歴史の道百選」に選ばれている。

二本杉峠からは多少の上り下りはあるが比較的平坦な道が続く。滑沢峠から、尾根の北面の平坦な道をしぼろ行く。三蓋山へはブナ林の急登。越えれば、つげ峠だ。アセビなどが目立つ樹林帯で、たまに樹間に西伊豆方面の山が望める程度で展望はほとんどない。

猫越峠の変則十字路を右に行く。ゆるやかな上り下りを繰り返すと二等三角点のある猫越岳。少し下ると猫越岳山頂の池がある。池には水生植物のヒルムシロが生え、初夏に

はモリアオガエルの産卵も見られる。この先に展望所があり、これから向かう仁科峠から西伊豆方面、富士山、南アルプスまで望める。

アセビなどの灌木が茂る急な木の段を下ると後藤



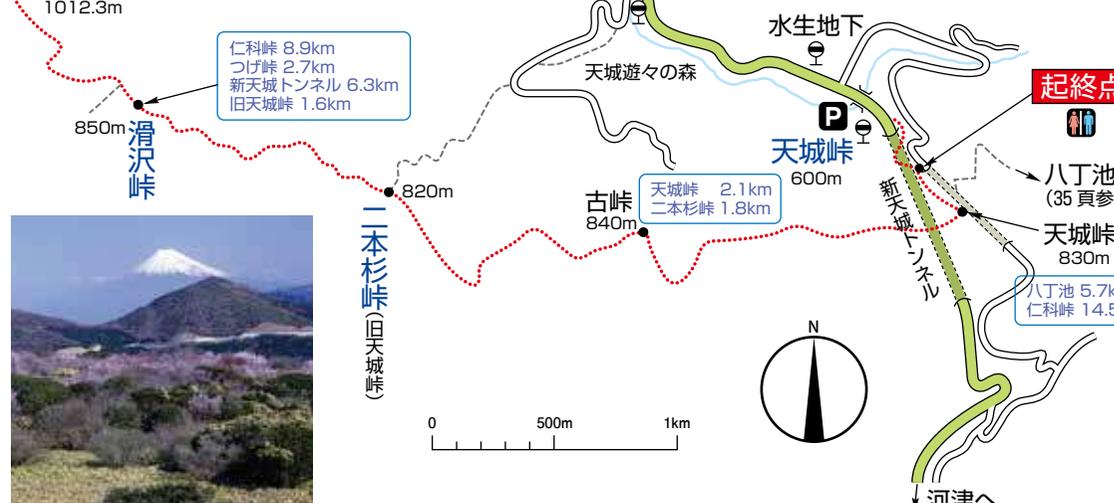
所要時間：約6時間50分(☉天城峠～風早峠)

修善寺駅	バス	170分	風早峠	30分	仁科峠	15分	後藤山	30分	猫越岳	15分	猫越岳	25分	猫越岳	80分	つげ峠	30分	三蓋山	40分	滑沢峠	25分	二本杉峠	40分	古峠	40分	天城峠	25分	旧天城トンネル	15分	☉天城峠	バス	43分	修善寺駅
		46分	10.8km	1.3km	1.0km	1.7km	0.7km	0.7km	3.0km	1.2km	1.3km	1.6km	2.0km	1.9km	0.5km	0.3km	0.3km	0.3km	2.2km	60分	バス	41分	修善寺駅									

☉天城峠の森入口 バス 41分 修善寺駅



▲二本杉峠



▲仁科峠

峠。上り返して後藤山。再び下りになると天城放牧場から魂の山、富士山が望める。

牧場の道を横断してよるとナベ石と呼ばれる巨石がある展望所。富士山をはじめ、360度の展望が素晴らしい所だ。ササ原の中を下ると県道伊東西伊豆線の仁科峠。道路反対側の斜面を上り、ササ原の中を下ると風早峠に出る。

22 西伊豆歩道(通り崎コース)

西伊豆歩道は伊豆西海岸の大瀬崎(沼津市)から西伊豆町堂ヶ島までの海岸線に作られた八つの長いコースである。伊豆市内を通るコースの一つ目は**通り崎コース**である。起点は土肥港であるが、土肥から港までを追加して通り崎コースとして紹介した。

修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで51分、土肥温泉で下車。

車利用の場合は、松原公園の市営駐車場に停めて、終点の八木沢からバスで戻ることになる。バスの便はあまりよくないので、事前に調べて



▲世界一の花時計



▲松原公園(若山牧水像)

文政の古道を道しるべに導かれて鄙びた八木沢へ

山牧水の歌碑、島木赤彦の歌碑、大場美夜子の句碑、井沢満の青春の碑などがあり、近くの松原大橋の歩道橋には若山牧水の像もある。大正7年に初めて土肥温泉を訪れた彼は、土肥温泉をこよなく愛し、何度も訪れて、沢山の歌を残している。温泉ヤグラの所には**花登崖の歌碑**もある。

マツ林を抜け海岸遊歩道を土肥港へ。火振川のバス停の先に西伊豆歩道**通り崎コース**の案内板がある。左の山道へ入ると、簡易舗装された急な坂を右に大きくカーブしながら上っている。右下に国道、左にみかん畑を見ながら灌木の中を行くと、やがて平坦で歩きやすい道になる。枝道もあるが真っすぐ進む。右手、海側の木立の間から富士山が望める。

元臨海学校のフェンスから左に曲がり、急な丸太の段を上り切ると小さな切通しの峠。ここに道しるべの石碑がある。

峠からは丸太の段の下り、女竹や灌木から竹藪になり、港から30分で**富士見園地**。休憩舎と**文政の道しるべ**(石碑)とその説明板がある。

それによると、この道は、現在の海岸線を走る国道が出来る前は、この山道が唯一の交通の要所であった。古く江戸時代には旅人が道に迷い、



▲文政の道しるべ



▲翁 媪 酒を楽しむ図(天神神社)

しばしば追いはぎに遭い困っているのを知った地元八木沢集落の長者が、私財を投じて、この石道標を建てたと言う。それ以来、道に迷う旅人もなくなり、追いはぎも出なくなったと言う。石碑には「南無妙法蓮華経」と大きく彫られているほか、建立した長者の名前もある。

簡易舗装された急な坂を下り。右側が明るく開け八木沢の海岸や丸山が見える。もう一つの**文政の道標**を見て、右に大きくカーブして下り切ると国道に出る。ここに西伊豆歩道の案内板がある。案内板では**通り崎コース**の終点となっている。(全長1.65km、約40分)。ここで終わっても交通の便がないので旧道を400mほど歩いた八木沢のバス停を終点とした。

バス停の手前に**天神神社**があるので詣でていこう。小さな神社ではあるが見応えのある彫刻がある。本殿の中には佐藤伝兵衛作の「天女」、正面には「翁媪酒を楽しむ図」と俳句の扁額が掲げられている。佐藤伝兵衛は文政元年(1818)この地に生まれ、長じて宮大工となり伊豆・駿河の各地で社寺の造営に大きくかかわった人物で、同時に優れた彫刻師・絵師でもあった。号を環(たまき)または多満喜と称した。



コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	八木沢	15分	富士見園地	30分	土肥港	20分	土肥温泉	バス	修善寺駅
			55分				20分			51分

●所要時間：約1時間50分

23 西伊豆歩道(丸山コース)

西伊豆歩道丸山コースは、通り崎コースと合わせても4〜5程度なので1日コースとして歩くことができる。

起点の八木沢までは修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで55分。車利用の場合は、丸山スポーツ公園の駐車場を利用して、帰りはバス利用で戻ることになる。

通り崎コースの終点・八木沢から海岸方面に行くと八木沢漁港。西伊豆の明るい海と船だまりのある小さな漁村風景が見られる。浜橋、君沢橋の小さな橋を渡る。

防波堤につけられた舗装道が海岸線に沿って延びている。途中、左手に丸山スポーツ公園がある。ここは土肥桜とハマボウの群生地として知られている花名所である。1月には白と薄ピンク色の土肥桜が、7月にはハイビスカスに似た黄色いハマボウが咲く。

海岸に沿って15分ほど進むと左手に急な石段がある。約130段ほどの長い階段を上り切り、小さな分岐を左に入ると丸山園地。山階大権現の鳥居と小さな社があり、丸山城跡の解説板がある。

「この城は北条氏に属した土肥・高谷城主富永氏の出城とされ、西に

対する沿岸防備の一翼を担う水軍基地であったが、天正18年(1590)に豊臣水軍の攻撃を受けて落城したものとされています。ここにあり

のは出城跡(旧城)で、本城跡(新城)は国道の南側の丘陵にあったと思われる、今でも、この周辺には0.6m×1.2m、幅1mの土塁をめぐらした曲輪が見られます……」



▲丸山園地

分岐まで戻り左に下って上ると国道に出る。車に注意して横断し道標の所から山道へと入る。石畳の敷かれた坂道を上って、道が平坦になると富士見園地。振り返ると、その名の通り富士山が見える。そこは「おこり石」とその解説板がある。休憩舎の所に道標。里山園地0.8km



▲瀧桜二世

駿河湾越しに富士山が望める 海辺近くの自然遊歩道



▲丸山園地からの富士山

丸山園地0.4km。コンクリート製の水槽から右に曲がり、畑の中を下れば国道に出る。国道を左に行くことに大久保のバス停があり、左手に眼病・イボ取りにご利益のある「地持地藏菩薩」が祀られている。参拝する時に、綺麗な水を持参しお供えした後に祈願した水を持ち帰り、目やイボにつけるとよいといわれている。

大守院には弘法大師が数珠をかけたと言われる「数珠かけ石」と見ざる・言わざる・聞かざるの三猿が彫られた青面金剛の石碑(庚申塔)、富士見観音などが祀られている。庚申塔は、この石碑を左繩に纏った荒縄で縛ると、不思議と失せ物が出てくると言われている。

大守院の裏手の坂道を上って行く。石の敷かれた道を真っすぐ上り、車道を突っ切って更に上ると、また



▲里山園地からの展望



▲富士見園地

車道に出る。すぐ先で右に熊野神社へと曲がり、みかん畑の中を上るとトイレのある里山園地の入口に出る。左に土肥桜が植栽された車道を上ると広い三叉路。すぐ左手に里山園地の遊歩道入口が見える。里山園地の遊歩道沿いには薄墨桜二世や瀧桜二世などが植栽されていて、3月中旬ごろ訪れると満開の桜に出会うことができる。ぐるりと遊歩道を一周してこよう。休憩舎のある山頂からは富士山が望める。

足元に転がる大石は力石と言って、若者が祭りのなどで力試しに使ったものである。

戻って車道を下れば終点の駿豆学園のバス停に出る。西伊豆歩道の廻り崎コースの起点・小下田までは、国道を1.3km、バスなら2〜3分の所なので歩いて20分くらいである。



24 西伊豆歩道(廻り崎コース)

廻り崎コースは富士見遊歩道と接続している。突端の廻り崎は通称「恋人岬」と呼ばれ、富士山と夕日の美しい岬である。ここで好きな人の名前を呼んでラブコールベルを鳴らすと愛が実ると言われている。この後、恋人岬事務所まで「恋人宣言書」にサインすれば「恋人宣言証明書」と記念品が、お二人が結婚すれば祝電と記念品がもらえるほか、数々の特典がある。

毎年、2月14日のバレンタインデーと3月14日のホワイトデーには、恋人たちを対象にしたイベントが行われる。

修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで1時間3分、小下田で下車。コースの入口は国道を少し行った右手に案内板がある所であるが、その前に「最福寺へ寄っていいこう。最福寺には先代住職が私財を投じて作った資料館・夢の実現堂（入館無料）があり、三舟（勝海舟・山岡鉄舟・高橋泥舟）や三名僧（一休・白隠・良寛）の墨跡、当地出身の第14世本因坊秀和が使った囲碁セット、土肥出身で日本のカラー写真の開発者・長口宮吉の文献など、その他貴重な資料が展示されている。寺の入口には囲碁殿堂入りを果たし

コースタイム(参考)	
修善寺駅	バス 67分
小下田	バス 63分
米崎港	15分
富士見展望台(恋人岬)	15分
大早山	15分
小峰	40分
恋人岬	10分
土肥桜	25分
西伊豆歩道案内板	40分
土肥・修善寺へ	40分

所要時間：約1時間25分



コースの案内板から緩やかに簡易舗装された道を下る。段々になったお墓と金比羅神社の前を抜けると、正面にキラキラと輝く海と廻り崎が望める。時折、鐘の音が風に乗って聞こえてくるのは、岬の先端で恋人たちが鳴らすラブコールベルである。小さな橋を渡ると端正な顔をした石仏（馬頭観音）が一体。左手に「おかる滝」と呼ばれる小さな滝が落ちている。

道なりに下り、大きくカーブした先の分岐を左に下る。この辺りア

た秀和の頭影碑もある。

境内で4月初めには平成13年に登録された新品種の桜・イズサイフクジシダレ（伊豆最福寺枝下れ）が咲き、毎年花祭りが開催されている。

二つ目の小さな橋でまた分岐。その先に祠と不動の滝がある。分岐を右に下れば米崎の港だ。小さな漁村で港には数隻の漁船が係留されている。伊勢エビ漁が盛んで、秋の漁期には伊勢エビの水揚げ風景が見られる。

急な坂を上り、集落の外れから山道へと入る。米崎の集落を後にして急な舗装道が上がると分岐。左に上る道は恋人岬のバス停へ通じている。コースは右の山道を行く。マツ林や竹林を過ぎ海岸性特有の樹林の中を歩く。道が急になると富士見遊歩道・恋人岬へのボードウォークにぶつかる。階段が上がって恋人岬へ。

ウッドデッキの恋人岬は富士見展望台。北に土肥方面の山並み、そして洋上に浮かぶ富士山、遠く南アルプス。西に三保方面、駿河湾に行き交う漁船の姿もオモチャのように見える。

デッキにはラブコールベルとプロンプスの「アモレ」像があり、ひきりなしに訪れた恋人たちが鐘を鳴らしていく。

ボードウォークを戻り、急な階段を上ると、途中にもう一つのラブ

富士山を望む岬の先端で愛の鐘を鳴らし愛を確かめ合う恋人たちのメッカ

ロエの栽培が盛んなところで、冬場にはあたり一面アロエの花だらけになる。

舗装された坂を上り若山牧水の歌碑を見送ると、右にコースの案内板がある。真っすぐ行けば恋人岬のバス停へ行く。ちょっとときつい丸太の段を上ると三等三角点のある大早山。丸太の段から敷石、山道となり、マツやメダケが繁る尾根道が続く。

左に分岐を二つ見送ってウバメガシの林を丸太の段の上り下りを繰り返すと舗装道(市道)の終点に出る。休憩舎がある所から畑の中の道を上り、再び舗装道に出たら右に上ればこのコースの終点・小峰のバス停。近くの民家に土肥桜の木がある。

左に舗装道(市道)を行くと土肥桜の咲く花木園を経て恋人岬のバス停に上がる。





伊豆市のハイキングコースの花ごよみ

◎見られる
○多く見られる

季節	春 (3~5月)					夏 (6~8月)			秋 (9~11月)		冬 (12~2月)							
	ワサビ	サクラ※	シャクナゲ☆	トウゴロシバツツジ	マメザクラ	ヒメシャラ	アマギツツジ	タマアジサイ	トリカブト	イソギク	ツフブキ	紅葉	スイセン	ウメ	アロエ	ツバキ	菜の花	アセビ
ハイキングコース																		
1 修善寺温泉史跡・文学散歩	◎		○				○				◎	○	◎		○	○		
2 いろは道〜奥の院・桂大師	◎		○	○			○				◎	○	◎		○	○		
3 桂谷 88ヶ所巡り	◎		○	○			○				◎	○	◎		○	○		
4 修善寺古道		◎		○	○		○				◎		○	○	○	○	◎	
5 金冠山 きよせの森		◎	○	○	○	○	○	○							○		◎	
6 達磨山		○	○	○	◎			○	○									◎
7 コビサワラ原生林	◎	○				◎		○	◎						○	○	○	
8 天城シャクナゲコース		○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎			◎						◎
9 天城縦走		○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎									◎
10 皮子平	◎	○	◎	◎	◎	◎	○				◎							◎
11 湯道・熊野山 33 観音めぐり		○					○				◎		○		○	○		
12 天城遊歩道	○						◎				◎				○	○		
13 吉奈〜船原遊歩道		○					○				○	◎	◎		○	○		
14 狩野城跡		○					○								○	○		
15 太郎杉歩道	◎	◎						○			◎							
16 躰子歩道	◎	○						○	○		◎			○	○	○	○	
17 八丁池	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○		◎							○
18 野鳥の森 八丁池		○	○	◎	○	◎	○	○			◎							○
19 三筋山遊歩道		○	○	○		○									○			○
20 伊豆山稜線歩道 (1)		○	◎	○	◎	○	○											◎
21 伊豆山稜線歩道 (2)		○		○	◎	○					◎							◎
22 西伊豆歩道・通り崎コース		○					○		○	◎	◎	○	○	○	○	○		
23 西伊豆歩道・丸山コース	◎	◎							○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
24 西伊豆歩道・廻り崎コース	○	◎						○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※伊豆市で見られる桜はソメイヨシノ・オオシマザクラ・ヤマザクラ・修善寺桜・修善寺寒桜・土肥桜・瀧桜・薄墨桜・サイフクジシダレなど。(マメザクラは別項に)
 ☆伊豆市で見られるシャクナゲは主に山間部では天城山の固有種であるアマギシャクナゲである。
 修善寺温泉街、修善寺 虹の郷、昭和の森グリーンガーデンでは主に西洋シャクナゲが主体である。

伊豆半島ジオパークの紹介



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

ジオパークとは?

ジオパークという言葉は、ギリシャ語で「地球」や「大地」を意味するジオと「公園」を意味するパークを組み合わせたものです。

地球活動によってできた自然や文化といった大地（ジオ）の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。大地の遺産を保護・保全し、教育・普及に活用し、持続的な地域の発展に取り組んでいる地域がジオパークを名乗ることができます。

伊豆半島ジオパーク

伊豆半島は、約2千万年前に本州からはるか南数百km先の太平洋の海底に沈む火山群でした。その後、フィリピン海プレートの上の動きに合わせて、日本の本州に接近し衝突、伊豆半島が誕生しました。

この本州への衝突は、約60万年前に起こりました。衝突後は、20万年前までは、半島のいたるところで噴火が続き、本書に記載のある天城山や達磨山といった伊豆の大型火山が誕生し、現在の伊豆半島の骨格を形成しました。

伊豆半島には、地球形成の痕跡が多数あり、その痕跡を間近でみることができる世界的にも特異な地域です。

ハイキングを行いながら、伊豆半島が太平洋の海底に位置し本州から数百km離れていたことを想像し痕跡を探してみてくださいはいかがでしょうか。

伊豆半島ジオパークに関する活動を行っている伊豆半島ジオパーク推進協議会では、ホームページで情報発信等を行っています。下記 QR コードから、ホームページへアクセスできます。また、**伊豆半島ジオパークミュージアム『ジオリア』**（伊豆市修善寺 838-1）も、ぜひご覧ください。

【問合せ先】

伊豆半島ジオパーク推進協議会



〒410-2416
伊豆市修善寺 838-1
TEL. 0558-72-0520
FAX. 0558-72-1355